パターンⅢ【元帳作成、仕損品評価額あり】

Ｃ工場ではＸ組製品とＹ組製品を同一工程内で連続生産し、製品原価の計算は組別総合原価計算を採用している。各組製品原価の計算においては、製造費用を直接材料費、直接労務費および製造間接費に分け、直接材料費及び直接労務費は各組製品に直課し、製造間接費は各組製品に予定配賦している。なお、直接労務費および製造間接費は、加工費として扱うこととする。

原価投入額を完成品総合原価と月末仕掛品原価に配分する方法は、Ｘ組製品は先入先出法、Ｙ組製品は平均法を用いること。次の資料にもとづいて組別総合原価計算表および各勘定に記入しなさい。

【資料】

１．生産データ

Ｘ組製品			Ｙ組製品		
月初仕掛品量	400 kg	(50%)	月初仕掛品量	400 kg	(50%)
当月投入量	2,800 kg		当月投入量	2,500 kg	
合　計	3,200 kg		合　計	2,900 kg	
差引：正常仕損量	100 kg		差引：正常仕損量	200 kg	
月末仕掛品量	500 kg	(20%)	月末仕掛品量	500 kg	(60%)
完成品量	2,600 kg		完成品量	2,200 kg	

（注）　・（　　）内は加工費の進捗度である。

・直接材料費はすべて工程の始点で投入される。

２．原価データ

Ｘ組製品			Ｙ組製品		
月初仕掛品原価			月初仕掛品原価		
直接材料費	281,400	円	直接材料費	454,000	円
直接労務費	90,500		直接労務費	179,500	
製造間接費	51,600		製造間接費	300,000	
当月製造費用			当月製造費用		
直接材料費	1,971,200	円	直接材料費	2,300,000	円
直接労務費	1,339,000		直接労務費	2,208,000	

３．製造間接費は直接作業時間を基準に予定配賦しており、年間製造間接費予算額及び年間予定直接作業時間は次のとおりである。

年間製造間接費予算額　64,000,000 円

年間予定直接作業時間　　12,800 時間

４．当月の実際直接作業時間は、次のとおりである。

Ｘ組製品　390 時間

Ｙ組製品　460 時間

５．Ｘ組製品の正常仕損は工程の終点で発生しており、仕損品の処分価額は＠52 円である。

６．Ｙ組製品の正常仕損は工程の途中で発生しており、仕損品の処分価格は＠165 円である。

組 別 総 合 原 価 計 算 表

（単位：円）

	Ｘ組製品			Ｙ組製品		
	直接材料費	直接労務費	製造間接費	直接材料費	直接労務費	製造間接費
月初仕掛品原価						
当月製造費用						
合　　計						
正常仕損品		－	－		－	－
差引：月末仕掛品原価						
完成品総合原価						

Ｘ　組　仕　掛　品　　（単位：円）

月初有高	423,500	当月完成高	（　　）
直接材料費	（　　）	仕損品	（　　）
直接労務費	（　　）	月末有高	（　　）
製造間接費	（　　）		

Ｙ　組　仕　掛　品　　（単位：円）

月初有高	933,500	当月完成高	（　　）
直接材料費	（　　）	仕損品	（　　）
直接労務費	（　　）	月末有高	（　　）
製造間接費	（　　）		

参考メモ【仕掛品ボックス】

X組仕掛品－直接材料費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 品
	月末有高

X組仕掛品－直接労務費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 品
	月末有高

Ｘ組仕掛品－製造間接費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 品
	月末有高

Ｙ組仕掛品－直接材料費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 品
	月末有高

Ｙ組仕掛品－直接労務費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 品
	月末有高

Ｙ組仕掛品－製造間接費

月初有高	当月完成
当月投入	仕 損 品
	月末有高